

# 永守流で“産学一体”

## 学園大、「京都先端科学大」へ

## 日本電産でインターンも

京都学園大を運営する学校法人京都学園(京都市右京区)の理事長に先月就任した永守重信氏(73)は「日本電産会長兼社長」が1日、亀岡市の同学園大キャンパスで開かれた入学式で、2019年4月から「京都先端科学大学」と大学名を変更すると公表した。同日付で文科省から認可されたことも明らかにした。永守理事長は「社会で即戦力になるよう、大きく変革することの大学で懸命に学んでほしい」と新入生を励ました。

2019年4月、京都学園大学は、京都先端科学大学へ。



入学式で初めて配られたチラシでは新大学名をアピール

### 入学式で来春変更発表

入学式には、新入生と保護者計1500人が出席。永守氏は「変革する社会に応じて京都学園大を変え、多くの企業が求める人

材に育つよう、日本電産の国内外拠点でインターンシップを受け入れなど教育内容を充実させる」と述べた。その後の会見で、永守氏

は、「教育内容や学校経営でも最先端を目指す思いを込めた」と説明。「偏狭な重視ではなく、東京大、京都大に次ぐ世界大学ランキングを目指すと強調した。入学式では、平昌冬季五輪で二つの金メダルを獲得したスピードスケート女子の高木菜那選手(25)は日本電産サンキョー所属がサプライズで登壇し、会場を沸かせた。(芦田恭彦)

学校法人京都学園の永守重信理事長は1日、亀岡市の京都学園大キャンパスにドローン(小型無人機)や電気自動車(EV)の技術開発や実験施設を整備する計画を明らかにした。永守氏が最高経営責任者(CEO)として率いる日本電産が最も重視するビジネス領域の一つで、大学と企業のトップに立つ永守氏がモーターに絡む研究開発を「産学一体」で推し進める考えだ。永守氏は入学式後の記者会見

亀岡キャンパスで 最重要視ビジネス領域

## ドローン、EV開発研究

で「亀岡には土地がある。EVのテストコースやドローンを飛ばす実験場を考えている」と述べた。すでに京都市右京区大森のキャンパスに100億円の私財を投じ、新設を目指す工学部の新棟や留学生用の寮を建設する計画も表明しており、亀岡でもハード整備を進める。「企業買収の名手」としても知られる永守氏は、自動車やロボット部品を手掛ける企業を次々に日本電産グループ傘下に収め、事業の柱に育てようとしている。大学で実験施設をつくる構想は、将来同社が採用する即戦力の学生を養成すると同時に、アジアを中心に優秀な研究人材を呼び込む狙いもあると見られる。一方、永守氏は「京都先端科学大学の『科学』は人文科学も含まれる」とも述べ、経済経営学部などの現行の学部も同様に強化する考えを強調した。(芦田恭彦、柿木拓洋)



学校法人京都学園の理事長に就任後初となる入学式で校名変更を発表する永守氏(1日午前11時25分、亀岡市・京都学園大)＝撮影・熊崎修